

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2011

課題番号：19520294

研究課題名（和文）インド古代説話の形成-『ブリハット・カタール』のカシミール伝本成立を
探る研究課題名（英文）The formation of ancient Indian folklore: A study of the Kashmiri
version of the Brhatkatha

研究代表者

柴崎 麻穂 (SHIBAZAKI MAHO)

財団法人東方研究会・研究員

研究者番号：30342679

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：インド古代説話、『ブリハット・カタール』、クシェーメンドラ、ソーマデーヴァ

1. 研究計画の概要

カシミールの『ブリハット・カタール』(BK)伝本、『ブリハット・カタール・マンジャラー』(BKM)と『カタール・サリット・サーガラ』(KSS)は同一の原拠を基に作成された説話集で、全18巻よりなる。その枠物語の内容は次の三部分-I. BK 起源譚、II. ウダヤナ王行状記、III. ナラヴァーハナダッタ(Nv)王子行状記-によって構成される。BKMとKSSは同一原拠によりながらも、物語の構成に関して、各所に不一致がみられる。特に枠物語の中心となるIIIには、特に大きな違いが見られるのが、主人公(Nv)の誕生の経緯(第4巻)と青年期から結婚の経緯(第7,8巻)、そして様々な冒険を経た後に、半身族ヴィディヤダラの転輪王となったNvが親族一同の前で、自らの半生を語る場面(第18,19巻)である。以下の研究計画に基づき、両伝本の成立の背景を探る。

(1) 基礎研究(テキスト講読): 二伝本間に相違の見られる以上の巻を中心に BKM と KSS の二テキストを比較しつつ読み進め、両本の相違を明確にする。その際、今は失われた原BKを最もよく伝えとされる『ブリハット・カタール・シュローカ・サングラハ』(BKSS)をも併せて対照しながら比較分析の基礎データを収集する。講読は、若い巻数から順次進めることとする。

(2) 関連文献・資料の調査と収集: ①写本調査: BKM と KSS、BKSS の異写本を収集するために、Web や国内で閲覧できる写本カタログの調査、および海外の主要図書館・研究機関での調査を行う。②関連論文・研究の調査を行い、①とともに必要に応じて随時それら

を複写・購入する。

(3) 現存テキストの校訂: 校訂作業についてはできるならば BKM 全体の校訂が望ましいが、本研究では研究対象となる巻に限定して作業を行うこととする。(1)のテキスト講読と平行して、入手できた写本を参照しながら、テキストの校訂作業を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 基礎研究: 現在物語の中盤に当たる第7,8巻部分の読解を進めている。当初の予定では、昨年度までに読了を目指していたが、今年度はこの部分の読解を終了したい。

(2) 関連文献・資料の調査と収集: ①写本調査: 写本情報については、ヨーロッパの図書館・研究機関で積極的に Web 上での公開が進められているケースが多く、これまでは主にヨーロッパでの関係資料の収集にあたってきた。現時点では、BKMの写本が数本確保し、KSSについては昨年度1本の写本を複写入手した。このKSSの写本は年代の特定など不明な点が多く、まず写本の背景について調査する必要がある。

(3) 現存テキストの校訂: 対象となるテキスト講読の際には、随時入手した写本を参照し、読みに問題がある箇所を中心に比較・分析を進めている。

(4) 昨年度の調査で、カシミールの史書に15世紀のペルシャのムスリム達もBK(おそらくKSS)を好んで朗読していた記録があることが分かった。これまで進めてきた研究や現存

する関連文献から、BKM が典拠に忠実であるのに対して、KSS は章立ての大幅な改編がなされた作品であることが明確となっていた。時代・民族・宗教を超えて広く読まれ、後代の諸作品にも影響を及ぼした KSS を著者 Somadeva はどのような意図で改編したのか、宮廷詩人として Somadeva が置かれていた状況についてもあわせて考えてみる必要がある。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

本研究を開始した 2007 年度秋に出産し、その年度途中から 1 年間、育児による中断を余儀なくされた。2008 年秋に本研究を再開後は、可能な限り研究の遂行に従事しているが、育児との両立により、当初の計画通りの時間確保が難しいため、若干遅れが生じている。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 基本研究については、今年度はなるべく早い段階で第 7,8 巻部分の読解を終えることとする。

(2) 関連文献・資料の調査と収集のうち、BKM, KSS とともに写本調査は引き続き行う。インドにはまだまだ未知数の写本が存在している可能性が高いが、現地に赴かない限り、情報収集は不可能な状況にある。しかし、このところインドでも各地で Web による写本情報の提供が進められるようになってきている。今後は、こうした動きを注意深く追いながら、情報の収集に努める。さらに、カシミールの古代から中世にかけての史料の調査も行うこととする。必要があれば国内・海外出張によって、不足資料を補う。

(3) 第 8 巻を読み終えた段階で、これまでのテキスト研究で得られた分析結果を論文としてまとめ、国際学会 (Dubrovnik International Conference on the Sanskrit Epics and Puranas など) でその成果を発表する。

(4) 論文執筆と並行して次の 17, 18 巻の読解に着手する。

(5) 最終年度となる 2011 年度は、研究成果の総まとめを行う。6 月まではテキスト分析を中心に遂行する。当初の計画通りに 18 巻まで読了できないことも予想されるが、問題点を明確にした上で、以後は分析結果の総まとめに着手する。

(6) その成果は、日本印度学仏教学会や日本

南アジア学会、国際学会 (Association for Asian Studies) など で発表する。